

令和2年度 第1回 福岡市総合図書館運営審議会 議事録

1 日 時：令和2年10月20日（火）15：00～16：50

2 場 所：福岡市総合図書館 3階 第1会議室

3 出席者：委 員）西川秋生，渡邊由紀子，国広奈穂子，萩尾憲子，上村篤子，松原明子  
香川純子，高橋昇，脇川郁也，脇山真治，森望，宮本直嗣  
（計12名）

職 員）吉田総館長，青木事業管理部長，若山運営課長，宮川図書サービス課長，  
小森文学・映像課長 他

傍聴人）2名

4 議事録

1. 開 会

総館長挨拶／委員紹介／職員紹介

2. 議 事

議事1 会長，副会長選出

会長に高橋委員，副会長に萩尾委員を選出

議題2 令和元年度事業報告について

委 員	【I 利用状況—図書館全体】 新型コロナウイルス感染症の影響もあり，開館日数は減少している。しかし，総合図書館を除き，平成30年度よりも令和元年度の入館者数が増加しているのはなぜか。
事 務 局	総合図書館の入館者数については，平成30年度よりも令和元年度が減少している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館したことによる減少や，そもそもここ数年，図書館利用者数が年々減少しているという現状があるからである。総合図書館の貸出利用者数や貸出冊数も含め年々減少しており，市内だけでなく，全国的に減少傾向にある。インターネット普及に伴い，簡単な調べものではスマートフォン等を利用していることが減少傾向にある理由の一つであると思う。また，分館の平成30年度の入者数においては，計測機器の調整を行ったことから，平成30年8月～平成31年3月の8か月間の計測人数の概算であり，令和元年度は1年間の計測人数である。そのため，分館においては比較が難しいが，全体的には入館者数は減少しているところである。
委 員	館別開館日数で，東図書館のみ開館日数が多いのはなぜか。
事 務 局	東図書館は指定管理により運営を行っており，東図書館を除く分館については，毎週月曜日と月末休館日が休館となっているが，東図書館については，休館日が月1回の最終月曜日のみであるため，開館日数が多くなっている。

委員 事務局	<p>東図書館が開館日数が多いため、入館者数も多くなっているのか。</p> <p>東図書館は平成 28 年に移転改築をしており、移転前と比べて交通の便が良いところにある。また、東図書館は他の分館に比べて開館日が多だけでなく、開館時間も長くなっている。他の分館の開館時間は、午前 10 時～午後 6 時までであるのに対し、東図書館の開館時間は午前 9 時～午後 8 時までとなっている。そのような理由もあり、入館者数が他の分館より多くなっていると思われる。</p>
委員	<p>【Ⅰ利用状況—図書資料部門—1 個人貸出】</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、食品やレンタルのブルーレイ、コンビニやスーパー等宅配サービス利用が増えている。今後、新型コロナウイルス感染症拡大がある程度落ち着いたとしても、「有料宅配サービス」が伸びてくると思うがいかがか。</p>
事務局	<p>福岡市総合図書館では、障がいがある方に対して送料を市が負担する「郵送貸出」サービスを行っており、利用も多い。障がいのない方に対しては「有料宅配」サービスを行っており、高齢の方や仕事等で忙しく予約本を図書館に受取に行くことができない方等の利用があるが、送料の利用者負担があること、送付まで負担額が未定であること、図書館業務システムに組み込まれておらずインターネット予約後に電話で有料宅配の申込手続が必要などの理由で、利用は伸びていない。コロナ禍で外出したくない方にはある程度は有効だが、図書館としては発送・返却時に本の破損・汚損の確認等が必要など時間や手間がかかることもあり、感染対策として通常の図書館サービスの代替となるものではないと考える。</p>
委員	<p>民間配送業者と協力する等、今後のサービスのあり方の一つとして検討の余地はあると思う。</p>
委員	<p>【Ⅱ事業概要—図書館全体—9 情報発信事業】</p> <p>Facebook や Twitter, LINE 等による情報発信やメールマガジンの配信の内容はどんなものか。</p>
事務局	<p>メールマガジンについては、毎月、月末～月初めに現在図書館で行っている企画や司書がお勧めする本、今月上映する映画、またそれらを紹介するホームページの案内等を行っている。Facebook と Twitter は、総合図書館ホームページと一部リンクしているところがあるが、新しい企画やイベント、重要情報について発信している状況である。また、LINE は無料で利用できる範囲は登録人数に制限があり、登録している方に学習室の混雑状況等を年数回発信している状況である。</p>
委員	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中々学習室等も利用できない状況であると考えますが、SNS を活用しているのは若者が多いと思う。総合図書館ホームページは運用費用がかかると思うが、その費用対効果はどのように考えるか。</p>
事務局	<p>総合図書館ホームページについては、分かりやすいものになるよう随時検討しているところである。総合図書館ホームページは委託業者に、新しいバナー作成等改良を依頼している状況であり、強調文字や色付き文字等にするには業者へ委託</p>

	<p>することが必須であるため、利用者へのアピールが足りないところもあると考えている。総合図書館のホームページの改修すべきところがあり、改修費用予算は毎年 50 万円程度である。</p>
委員	<p>図書館に足を運びたくなる魅力的な SNS やホームページ等を作ってほしいと思う。</p>
委員	<p>総合図書館ホームページのトップページから YouTube のリンクがあるが、それをクリックしても動画が公開されていないようであるが確認してほしい。</p>
事務局	<p>総合図書館ホームページの YouTube については確認し、公開できるような動画があれば積極的に掲載していきたいと思う。</p>
	<p><b>【 I 利用状況—図書資料部門— 1 個人貸出】</b></p>
委員	<p>福岡市科学館に図書室があると聞いたが、図書返却ポスト一覧に福岡市科学館が入っていないのはなぜか。また、福岡県立図書館と福岡市図書館の本について大きく視点が違うようなところがあるのか。</p>
事務局	<p>福岡市科学館は図書の貸出拠点としての機能もあるため、2 ページに「アミカス・科学館」として別途掲載している。なお、返却拠点としては、今年度、アイランドシティの中に 1 ヶ所返却ポストを新たに設置した。また、福岡県立図書館と福岡市図書館の蔵書の傾向については、都道府県図書館は利用者に近い市町村立図書館とは求められる役割が異なり、市町村図書館の支援という機能がある。また、福岡県立図書館の蔵書も相互貸借で福岡市図書館で借りることができる。</p>
	<p><b>【 I 利用状況—図書資料部門— 2 団体貸出】</b></p>
委員	<p>壱岐市は長崎県内であるが長崎県立図書館は決して大きくはない。壱岐市の団体に対し、県を跨いでの団体貸出サービスは可能か。</p>
事務局	<p>福岡市の団体貸出については、他都市に比べ大規模かつ独自性の高い方法で行っており、3～6 か月間、最大 1,000 冊まで貸出しているが、福岡市内の団体という登録条件があり、県外団体への貸出は考えていない。</p>
委員	<p>新しい協定などが必要になると思われるので困難とは思いますが、県外への団体貸出についても今後検討してもらえればと思う。</p>
	<p><b>【 I 利用状況—文書資料部門】</b></p>
委員	<p>10 ページの歴史的公文書の展示について、令和元年度の延べ来場者数が非常に多い理由は、特別な展示をしたからなのか。</p>
事務局	<p>令和元年度は平和台野球場について展示した。当時、西日本新聞は類似テーマで新聞連載や講演会開催等をされており、同社と連携して取り組み、紙面に掲載された。市民に好評だったこともあり、展示期間も 1 ヶ月程度延長した。テーマが市民のニーズに合ったことや、新聞社と協力して広報したこともあり、来場数が大幅に増えたと思われる。</p>
委員	<p>毎年、同規模の来館者数を目指すのか、それとも令和元年度の展示が特別だったの</p>

事務局	か。 福岡市が収集している歴史的公文書について、できる限り、展示時期のニーズに沿ったものを展示していきたいと考えている。今後も検討しながら取り組んでいきたい。
委員	【Ⅱ事業概要—図書館全体—6 市民との共働事業】 2名のインターンシップ生を受け入れたと記載されているが、どのような内容を行ったのか。また、受け入れたインターンシップ生は、将来、司書になることを希望されている学生なのか。
事務局	九州インターンシップ推進協議会という組織から毎年、福岡市宛てにインターンシップ生を受け入れてほしい、何名受け入れられるか等の照会があり、総合図書館では2名のインターンシップ生の受け入れを行ったものである。司書実習での学生等の受け入れは、九州インターンシップ推進協議会からの依頼とは別に、個別に図書サービス課が中心となって実務等の実習を行っている。九州インターンシップ推進協議会からのインターンシップ生については、図書業務はもちろんのこと、図書、映像、文書、図書館の運営等の様々なことをカリキュラムを組み参加してもらうものである。
委員	インターンシップ生の対象は、大学生で、夏休み期間なのか。
事務局	期間は夏休みで、対象は大学生である。
委員	【Ⅱ事業概要—映像資料部門—1 映像資料等の収集、整理・保存状況】 映像フィルム収集状況では、令和元年度の購入が0本となっている。これは収集すべき映像資料が無く、予算化されなかったのか。
事務局	映像フィルムについては、購入については予算化されず、寄贈にて収集していきたいと考えている。
委員	ぜひ映像フィルムの収集の購入予算を復活させてほしい。総合図書館の最も特徴的な分野はフィルムアーカイヴの存在だと考えている。国際フィルムアーカイヴ連盟に加盟しているのは、日本国内で2か所しかなく、その内の1か所が総合図書館である。20数年間収集された実績をここで0にするのは悪いメッセージを与えてしまうと思う。少して良いので、購入予算を復活させてほしい。

議題3 報告事項

報告1 令和元年度福岡市総合図書館の運営に関する評価について  
(福岡市総合図書館新ビジョン推進に関する点検評価会議の報告)

<p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p>	<p>【事業別の評価調書について】</p> <p>&lt;13 子どもの貸出カード作成推進&gt;</p> <p>各計画の内容について「促進する、実施する、検討を継続する、貸出を行う」等の表現の計画が多く、具体的な数値目標でない。継続するという目標であれば、継続したらA評価となる。今回の内部評価で唯一C評価だった13についても、取り組みを継続するという計画であるため、継続したのならA評価ではないのか。後々の評価にかかわる計画であるため、可能な限り数値目標を立てるべきではないか。評価のことを考えた計画の立て方を工夫すると、より精度の高い計画評価になると思う。</p> <p>数値目標を立てた方が分かりやすいものになると考えるが、項目によっては、数値目標の設定が難しい計画もあり、今後検討したい。13については、新ビジョンの前期事業計画では、新小学一年生全員に貸出カード作成を促すという大きな目標を掲げていたが、小学校と協議した上で、貸出カード作成時の個人情報の取り扱いが障壁となり実現できなかった経緯があり、後期事業計画では、機会を捉えて多くの子どもたちや保護者に貸出カード作成を働きかけてくこととし、計画では13の表現に変更して事業計画の見直しを行ったところである。1学年の何パーセントに貸出カード作成を促す等の目標を立てにくく、数値目標を設定できていない状況である。小学生の図書館見学などの機会を捉えて貸出カード作成を促していくとともに、目標設定のあり方についても検討していきたい。</p> <p>福岡市図書館は雇用形態がさまざまであり、色々な方が働いている。現場職員の意見をよく吸い上げるよう工夫し、働く人のモチベーションに配慮してほしい。</p>
--------------------------------	---

報告2 新型コロナウイルス感染拡大防止対策について

<p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>返却された本の排架待機について自身で調べたところ、紙の本は1日程度待機すればよいが、ビニールコーティングされた本は消毒するか、待機時間を長くする必要があると記載されていたが、いかがか。また、居室の換気について、外気の強制吸排気を行う際、どの程度の時間で総合図書館内の空気が入れ替わるのか。</p> <p>新型コロナウイルス不活性化の時間についてはさまざまな考え方があり、委員指摘のように念を入れて長時間おいた方が安心だという考えもあるが、全館で1日あたり1万数千冊の図書が返却されてくる中で、排架を3日間待機させるのは現実的には困難な状況である。ただし、自動返却機やポスト等に投函してから本の待機場所に来るまでに一定の時間がかかっているため、24時間以上は待機状態にある。この措置をいつまで続けるのかは他都市の図書館の状況を確認しながら検討したい。また、強制吸排気については、外気を取り込む容量は分かるが、総合図書館内の容積にかかわるため、何時間で空気が入れ替わるかについては確認していない。</p>
----------------------	---

報告3 電子図書館について

委員	電子図書館向けコンテンツとして、8万冊程度が公共図書館に提供されているとの説明があったが、その中から電子書籍を選ぶことになるのか。また、その際の選書の傾向等は決まっているのか。さらに、最近、福岡県立図書館も電子図書館サービスを導入したが、福岡県立図書館と福岡市図書館の住み分けは考えているのか。
事務局	あるシステムを例にとると、電子書籍提供数は約9万2千タイトルだが、その内、重複分を除くと約8万タイトルとなっている。電子図書館のシステムによるが、コンテンツの種類として、買い切り、2年間のみ閲覧できる等の期間限定での貸出、一回の貸出ごとの課金制などの契約形態があり、重複が生じている。また、基本的にはコンテンツ1点につき1利用者しか閲覧できないが、同時に複数人が閲覧できるコンテンツの場合は価格も高額となる。選書については検討中だが、電子書籍は現在、各種コンテンツの供給が行われる過程にあり、新たに出版社が参入するタイミング等、その時々でラインナップが異なるようなので、考慮に入れる必要がある。福岡県立図書館の電子図書館との住み分けについては、システムによって、専門書に強い、洋書に強い等、提供する電子書籍コンテンツの傾向が異なっており、福岡県立図書館は主に専門書や辞書等が中心のシステムを導入しているのに対し、福岡市図書館ではもう少し一般向けの読み物や小説等も提供するシステムを導入予定である。どのような利用者にサービスを提供するかを考えながら選書を行いたい。
委員	子ども向けの動く絵本とは、自動でページが捲られていき、音声聞こえてくるようなものか。
事務局	動く絵本としては、動画とともに文字があらわれるコンテンツ、音声読み上げコンテンツ、声入りの音声コンテンツなどもあるようだ。
委員	詳しいことが分かったら、教えてほしい。読み聞かせ活動をしており、肉声での読み聞かせの良さは分かっているが、それが電子書籍ではどうなっているのか気になる場所である。動く絵本とは、既存の紙の絵本を電子書籍化したものか、それとも電子書籍のために作られた絵本なのか。
事務局	既刊の絵本の電子書籍化もあれば、そうでないものもあると思うが、詳細はまだ把握していない。
委員	電子書籍が検索・予約・貸出できるサービス開始の案内はいつ行う予定なのか。
事務局	システム改修作業等の作業が必要であり、電子図書館がいつからスタートするかが未定な状況である。利用者へのお知らせについては、総合図書館ホームページへの掲載や新聞に掲載してもらえよう新聞社への情報提供を行っていく予定である。

4. 閉会

事業管理部長挨拶／事務連絡